



11月13日・福島・ウイナーズサークル（左：小笠調教師）

# 小島友実の あの馬の **STORY**



ブリエヴェール

11月13日、福島競馬場で行われたダートマラソン戦を逃げ切って圧勝して2勝目をマークしたブリュエール。母のレーベンズナール(3勝)、祖母のオットィマール(2勝)もクリーンレコード所屬馬でしたからこの血統に注目していただけの方も多いのではないかでしょうか。祖母と母はブリュエールを管理する小笠原弘厩舎所属ではありませんでしたが小笠原弘厩舎は「2頭とも堅実に走りました」という印象を持っていましたのです。

6回の札幌戦ではダービー1000メートル戦に出て走る。2戦とも中団から伸びるレースで、2着。そして7回の函館戦からは池添謙一騎手が手綱をひいておせりダービー1000メートル戦に一度出走した。

「3着だったたゞ戦は内容が良かっただのですが、8戦目は外枠から行ききれなくて6着。池添騎手からは『この馬に向いてない』と選択肢としてあるのではないかですか」と話す。6月にはまだ未勝利戦も残るがあつたが、8月になれば末勝利戦も残

「あれ」レコードも予想以上の「フォーレンハ  
ベシ」した。馬体減にならなかったが、輸送  
もあつたし心配してつまらせた。小沢  
騎手はさみと後続馬になし崩して脚を  
使わせる展開に持ち込んだとの事で、そ  
の判断も素晴らしかったと思つてます」  
勝田を挙げた後は放牧く。その後は  
「年明けの小倉ダートマーティン戦を視  
野に進めておきたい」と師。今後の見通し  
を伺つました。

一福島戦では好タイミングの圧勝となり、2勝つづくとも善戦もありました。他馬を気にするなど展開に課題があるので、現状では前走の福島戦のよつた戦法が合っていません。あとは体重ですよ。馬房では手のかからない馬で飼葉は食べなんですが、なかなか大それないタイプですね。でも今後はこの辺で増えていくでありますし成長途上の段階で勝手へられたのでキャリアを積んで心身ともに成長していくけば、これからは活躍が大いに期待できると思つます。

手にしたのです。  
「レーハ前、池添騎手は『1000メートルを走ってきたので、アーチーの逃げにハマ行けぬ』と云々。おじがどいても持つかでしゅね」と話していました。実際、レーハではスムーズに先手を取りて、怖がりの面をカバーでもたのも良かつたですね。勝ち切れないのでレースが続いていたので、勝てて本当にホッとした」

小笠原はアーチホールの最所にて、  
「ノーベル賞受取の権利をもつてゐる  
ペリー、トマスの遺伝子などもみゆる」

戦を走り、着の着として成績でした。  
「2戦ともスタートを決め、ペースを  
見せて先行するも、最後は脚色が鈍る  
形。レースでスイッチが入るもつないか  
がありました。ですから距離を短縮し、  
平坦コースの方が合っていると判断。減量  
騎手を起用し、新潟のターミナル戦で  
戦に向かつたのです」

それも勝ち時計の1分46秒3は同日の3歳以上2勝クラスのダート1700メートル

れも大きな着差をつけての勝利でしたよ。三子のブリーフホールドでの2

「三戦田は一杆からハーフ通りの」ハナ  
行き、直線も粘って今後の期待が持てる  
内緒でした。ただ4戦目は三戦田ほとと  
シヨウガがつかずの着。この新潟戦の後、少  
しへり下りにしてる感じがあり、体がショ  
ートになってきたので、北海道に滞在し、  
一ヶ月走ることにならなかった。

たが前述した通り、11月の福島戦では昇級2戦目で現級を突破。それも翌日FC福島で行われた3歳以上2勝(2着)のダート1700mトルク戦の相馬特別より0.7秒速い好タイム。小笠師は「前々走がフローラック

勝も逃げ切りの圧勝で、血統が持つ闇深  
さ、ホトヘルを感じさせてくれるか  
ん。ブリーフホールの今後の活躍が本當に  
楽しみか。

競馬キヤスター＆ライター。現在、ラジオNIKKI「中央競馬実況中継」に出演中。「週刊競馬ブック」や「JRA-VANスマートアプリ」にて連載を持つ。ライフワークは馬場取材で、2015年「馬場のすべて教えます（主婦の友社刊）」を出版。JRAの競馬場の他、最近は地方競馬場の馬場取材も行っている。

## profile

(11月中旬：電話取材)